

代 表 者

研 修 報 告 書

令和元年 10 月 15 日

各会派代表者 殿

呉市議会議員 岡崎源太郎

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 視察期日

令和元年 10月 4日 (金)

2. 調査項目

議員定数の決定手法と議員定数改正が及ぼす影響

3. 参加議員

岡崎源太郎

4. 随行者

なし

## ■研修項目

### ・主催

(株)地方議会総合研究所

講師 廣瀬和彦

### ・研修期日

令和元年10月4日(金)

### ・研修目的

議員定数と議員報酬の決定手法の勉強

### ・研修内容

議員定数・議員報酬の国内外の現状と決定要素の説明

#### 【呉市での展開の可能性】

議員定数については、従来は国が人口に応じた定数基準を定めていたが、これが廃止となったために、各自治体が独自で条例により、考えて決めることになった。定数基準を国が示さないのは、先進国では日本ぐらいのことである。

各国の定数の表もいただいたが、外国は日本より定数が多い傾向がある。しかし、外国は議員はボランティアであるとの考えがあり、報酬が無いか低いので、日本の議員定数の参考にはならないと感じた。また、韓国の議員定数は桁違いに多いが、再選率は2割程度とのことであった。

国の定数基準がないと、コスト削減で全体的に低くなりがちであるとのことであった。

今の日本の自治体の現状は議員定数は減で、議員報酬は増加傾向にあるとのことであった。立法機関としては少ない方が、決定が早い、監視機能としては多い方がいいようである。

一般的に議員定数決定要因としては、

自治体の人口、面積、自治会数、小学校数、財政規模、委員会数が根拠となる。面積と人口から標準値を算出する数式があつて、呉市の面積353平方キロメートルと人口22.86万人から算出すると、32.813という数になった。

この式からすると呉市の議員定数は標準値を超えているように思えるが、呉市は急速に人口が減っていて、それを考慮しないといけない。次の選挙の定数を考える場合、次の次の選挙まで8年先の人口を計算式に入れると、32を割ってしまう。

呉市の場合、人口動向と、面積は広く、海で地域が分断されていることも考慮して、次の選挙までに決定する必要がある。